慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | ウィリアム・ミラー アメリカの指導的実業家の出自 |
| Sub Title | |
| Author | 中村, 勝己 |
| Publisher | 慶應義塾経済学会 |
| Publication year | 1951 |
| Jtitle | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.44, No.10 (1951. 10) ,p.622(70)- 624(72) |
| JaLC DOI | 10.14991/001.19511001-0070 |
| Abstract | |
| Notes | 論文紹介 |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19511001-0070 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

然しこれらは何れも貿易の趨勢を變質せしめる程のものとはいひ難い。他方に於いて初期には重要な輸出品であつた鉛や錫は減少し、結局毛織物地のみが依然として最も重要な輸出品であつた。次に輸入品では、嘗て最も重要な濫費の對象であつた亜麻糸・同原料・亜麻布・帆布等が三割方減少し、更に鑛産品就中大青の如きは十分の一程度になつてしまつた。これは要するに當時國内に移植し生産することが可能なものの輸入が減つたことである。加ふるに綱具（船舶用）砂糖（精製用）羊毛（フェルト帽子用）等新興工業の原料は輸入増加を示してゐる。從つて政府が贅澤品の輸入による濫費を抑制し或ひは自給を達成すべく新産業を創設し、以て貿易收支を平衡せしめんとした努力は或程度成功したと考へることが出來よう。然し他方に於いてこれと逆行する現象もあるから（乾燥果實類・ファスチャン織・葡萄酒の増加、油・香料の減少）、右の傾向を過大に評價し直截的な判定を下してはならない。

## 四

通例エリザベス時代はイングランド貿易の擴大期でありその活動の渉からぬ部分が西歐以外の地方に向けられるに至つたといはれ、その證據として輸出入額の増加、取引先の變化、外洋商船隊の建造等があげられてゐる。いかにも輸出入額は確かに増加してゐる。然しその原因は輸出面では新織物類、輸入面では贅澤品にあつた。從つてこの時期に新しい工業發展も行はれはしたが、それは貿易に質的變化を齎らしたものでもなく、一般國民の生活水準を高めたものでもなかつたのである。又取引先の變化といふ事實も、アントワープの破壞に對處して直接消費地との結びつきを圖つた結果再調整が行はれたものにすぎない。從つて英商人は進出し、その限りで大船の建造も行はれたが、他方に於いて小船舶は著しく減少してゐるから、直ちに輸出額を増大せしめたといひ得るかどうか頗る疑問であつて、英商人の進出に積極性を認めるのは寧ろ困難である。要するに一見異常な發展であるかに思はれてゐるこの時代の變化は、凡ゝアントワープの破壞に對應せんとした受動的努力の現はれに外ならず、アムステルダムの興隆に至る間隙を利して英貿易が擴大することは出來なかつたのであつた。通説はもはや敬虔なる神話にすぎないのである。（宇治順一郎）



ウィリアム・ミラー

『アメリカの指導的實業家の出自』

（William Miller, "The Recruitment of the American Business Elite." Quarterly Journal of Economics, Vol. 64. No. 2. May, 1950. pp. 242—253.）

## 一　序論

アメリカの指導的實業家の出自に關する著名な研究Taussig, F.W., and Joslyn, C. S., "American Business Leaders: A Study in Social Origins and Social Stratification." N.Y., 1932. は心理的及び發生的分析に全く缺けてゐるので、その結論はかゝる複雜な問題に關する信用すべきものと云ふ事が出來ない。併しミラー氏の研究によると、一九一〇年代のアメリカの指導的實業家のうち、下層の移民及び貧農の子弟の出自は僅か三%に滿たず、大部分はヨリよい身分の出である。以下に於て、アメリカの指導的實業家の社會的性格と一般の人々の其との關係を、心理的・發生的角度から分析してみる。

### 二　國民的・人種的及び宗教的出自

一九〇〇年に、全人口の一二%を占めた白人以外の者――黒人、インディアン、メキシコ人、東洋人――で指導的實業家になつた者は無い。南歐・東歐人及びその子孫からも、又南米・アジア・アフリカ人からも皆無である。ユダヤ人は全人口の一%程度であるが、指導的實業家になつた者は六名で、いづれも排他的・同族的枠の内部に於てのみ高い地位を獲得した。一九〇〇年迄に大企業と重要な經濟分野とから大企業閥以外のものが排除されて了つた事は注目に値する。

一九〇〇年度國勢調査によれば、指導的實業家の兩親の双方又は一方が外國生れである者は一九%。一般に五〇歳の白人男子のうちアメリカ生れの者は五〇%强であるのに對して、指導的實業家の兩親と彼等自身がアメリカ生れの者は約八〇%である。又彼等の七九%は英國系（ブリティッシュ）で、一般人口のそれ（一七九〇年に七四・一%、以後は減少す）より多い。即ち、彼等は一般人口に比して、古くから土着した英國系の者が多い。

併し宗教に就ては事情が幾分異る。即ち、中産及び下層階級の多いプロテスタント諸派――メソディスト及びバプティスト――に屬する者と、身分のよい者の多い諸派――監督派（エピスコーパル）及び長老派（プリスビテリアン）――に屬する者の割合（一八五〇年度國勢調査による）は、一般人口の場合は、五三・二%對一九・一%、指導的實業家の場合は、一四%對四六%（確實な推定を加へれば一七%對五五%）、換言すれば、彼等の所屬宗派は一般人口の其よりヨリ貴族的・上流的である。カトリック及びユダヤ教は共に少い。

### 三　地理的及び社會的背景

彼等の國民的・宗教的繼承物と共に、彼等が育つた直接の環境もその生涯の方向を定めるのに重要であらう。彼等は農業地方からではなく、多くはヨリ古い商工業地帶から出た。即ち一八五〇年、アメリカ生れの白人及び自由黒人の分布は、新英蘭一一%、中部大西洋岸二八%（合計三九%）、中央東北部二五%、南部三一%、西部五%であるに對し、アメリカ生れの指導的實業家の分布は同じく夫々、二〇%、四一%（合計六一%）、

二五％、一〇％、四％であつて、一般人口に比して、アメリカ都市の實業的雰圍氣の中に生れ又は成長した者が著しく多い。又、誕生又は成長地に就て見ても、一般人口（一八五〇年）が都市（人口二、五〇〇以上）一六・八％、農村（人口二、五〇〇以下）八三・二％であるに對し、指導的實業家（生年に最も近い國勢調査による）は都市六〇％、農村四〇％である。從つて結論は右に同じである。

次に、彼等が生れ成長した家庭での父の職業は何であつたか。一八七〇年のアメリカ人男子の職業統計（タウシッグ及びフロウエッジョスリンの研究による）によれば、實業家六・二％、自由職業二・五％、農民三二％、農村及び都市勤勞者五六・七％、其他二・六％であるに對し、（この外に C. Wright Mills, "The New Middle Class: A Study of White Coller People" による數字もあるが、大差ないので省略する。）指導的實業家の父は、實業家五六％、自由職業三〇％（合計八六％）農民一二％、農村勞働者〇、都市勤勞者二％であつて、一般人口に比して、下層階級に生れ成長した者は少い。

又教育程度に就ても、一般の教育程度が小學校卒業（エレメンタリー・スクール）である時代に、彼等の場合は小學校卒業で止める者は僅か二二％で三七％はハイスクール又は同程度に、殘りの四一％は大學（カレッジ）に行つて（約四分の三は卒業）ゐる。之を一般（一八七〇年の大學生數は、一三―二〇歳の白人男子の僅か三・三％に過ぎないに比較すれば、遙に教育程度が高いのである。

## 四　結論

指導的なアメリカの實業家及び歴史家が今日も主張してゐる樣に、云はゞ誰でも大會社の社長になれたといふ事が眞實であるとしても、少くとも廿世紀の始に於ては、指導的實業家が當時の一般の人々と判然區別される或社會的性格を有してゐた事も眞實である。十九世紀の前半又は四分の三には、かゝる性格が彼等に顯著に見られないが、二十世紀に於ては、逆に彼等に一般的に見られる性格が、人口の殘りの部分には殆んど見られない。其故に少くとも、以上に述べた諸性格を有した人々が競爭に打勝ち、一般の人々の上に力を振ふに至つたといふ推定を下すことが出來る。（中村勝己）

# 松尾謙介君を偲ぶ

松尾謙介君は昭和十七年四月慶應義塾大學經濟學部豫科に入學、昭和三十二年三月慶應義塾大學經濟學部を卒業し、同年四月經濟學部副手となり、農業經濟學、主として中國農村問題を專攻し、更らに、昭和二十五年經濟學部助手となる。病氣靜養中、昭和二十六年八月十七日午後五時過ぎ山梨縣河口湖畔にて水泳中に心臟麻痺により卒去せられた。享年二十八であつた。

君は生來讀書を好み、特に語學の才に長じていた。研究生活中最も關心を寄せていた中國農村問題の研究は、君が既に早く慶應義塾大學在學中上海に滯在し、彼地に於て多くの友人と親交し、親しく中國の現情を見聞せしことにより、その端が開かれたものであつたと聞く。終戰後歸國し、慶應義塾大學經濟學部に復校し、以後は同學部小池基之教授の指導をうけつゝ、中國農村問題、特に「太平天國の亂」の研究に精進し、中國社會近代化の過程とその諸條件探究に努力されると共に、我國封建制崩壞の過程に注目せられていた。かくの如く專門分野の研鑽に日夜努力されると共に、多くの學生の指導にうむことなく、遂に病魔のおかすところとなつた。昭和二十六年八月、靜養中、身心共に恢復し、再起の日間近くなりし盛夏の一日、不慮の災に逢い、忽然として死去せられたのである。

學業半ばにして死去せられた君に、今少しく年月を與え、充分に研究活動の時を藉するならば、自己の專門分野においては勿論のこと、多くの新しき分野において學會に稗益し、又、慶應義塾大學に對しても功多からんことを信ずるものは私一人ではない。君も豐かな才能と鋭い叡智とを懷きつゝ、若くして、幽冥その所を異にするに至りし事は甚だ不本意の事であつたろう。

君の業績を偲び、君の人格を敬慕し、心より冥福を祈つて止まない。

（島崎隆夫記）